

8月7日(金)の「第3回金銀銅山サミット」が愛媛新聞に掲載されました。

金銀銅山 歴史を解説

全国中高生サミット

古里の礎を築いた金銀銅山の歴史などを学ぶ全国の中高生による「第3回金銀銅山サミット」(実行委員会主催)が7日、オンラインであり、新居浜南高校など9校が日ごろの学習の成果を披露した。

新居浜南高はユネスコ部員15人を代表し、河中部員部長(17)ら3人が別子銅山について発表。別子の銅は江戸時代に長崎から輸出されていたことや、山岳鉱山鉄道やダイナマイト使用といった技術を取り入れ「日本の産業革命を起した」と説

新居浜南高 別子紹介 学習の成果披露

別子銅山について発表する新居浜南高ユネスコ部員

河中さん。三宅泰次さん(17)は「自分なりの言葉で伝えられた」と振り返った。

足尾銅山(栃木)のあった足尾小中、日光名峰高や石見銀山(島根)の瀬摩高、太田西中、佐渡金山(新潟)の佐渡中等教育学校なども参加。ユネスコ部の山中結太郎さん(16)は「それぞれの特徴を知られて有意義だった」と話していた。

サミットは2024年から開催。第1回の4校から年々、規模が拡大している。

(月岡岳)

環境対策についても報告。木の伐採などで荒れ果てた山を再生するため、年間100万〜250万本を植林し、煙害解決にも積極的に取り組み「現在の持続可能な開発目標(SDGs)につながっている」と述べた。

ユネスコ部がガイドを務める産業遺産ツアーや銅山跡のツガサクラ保護活動も紹介し「別子銅山の魅力、部の活動を理解してもらえたと思う」と

新居浜南高ユネスコ部のプレゼン資料

「金銀銅山歴史を解説 全国中高生サミット」

2026年8月11日付愛媛新聞(掲載許可番号: d20260812-01)

愛媛新聞 ONLINE (<http://www.ehime-np.co.jp/>)